

(別記)

## 令和4年度一宮市地域農政推進協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約94%を超えるほど主食用米偏重である。主食用米の需要は長期低下傾向であり、需要に応じた生産をすることで収益を確保する必要があると思われる。このため、主食用米からの転換が最優先課題である。

### 2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は用排水分離がほとんどされておらず高収益作物などの栽培には適していないため、新規需要米等の転換作物においてICT機械の導入・普及、農地の集積・集約化を推進し生産性の向上を図る。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田は不適格耕地を除けば継続して耕作されている。一方、耕作がされていない畑は多くあり用排水が分離されていない水田における畑地化は現実的ではない上に、転換畑は栽培管理など面積当たりの労働時間が長い傾向にあるため、労働力が不足するとすぐさま遊休農地化する。そのため、水田の畑地化は担い手の有無なども勘案したうえで進める必要があり、過去に転換畑を推進した施策により多くの農地が遊休農地化している現状を踏まえ、基本的に水田として維持することで農地を守っていく。現地確認等で水稻作として適さない圃場があれば、持ち主の意向を確認した上で、畑地化を検討する。

また、水田における転換作物は園芸施設が主でありブロックローテーションは困難であるが麦などについては考慮していく。

### 4 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ需要に応じた米の生産を行う。

#### (2) 備蓄米

主食用米の転用で簡易に取り組めるため、現状の面積を維持していく。

#### (3) 非主食用米

##### ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転換作物に位置づけ、生産量の増加を図る。飼料用米の生産拡大にあたっては、多収品種での作付拡大を図りつつ、コンタミ防止の観点から主食用品種でも対応する。作付にあたっては複数年契約を推奨する。

##### イ 米粉用米

需要者との結びつきを強化しつつ、JAの系統販売を主に生産を行っており、需要

に応じた生産を行う。米粉用米の生産拡大にあたっては、多収品種での作付拡大を図りつつ、コンタミ防止の観点から主食用品種でも対応する。作付にあたっては複数年契約を推奨する。

ウ 新市場開拓用米

J Aの系統販売を主に輸出の拡大を図る。

エ WCS用稲

該当なし

オ 加工用米

需要者と結びつきを強化し、需要に応じた計画的な作付を推進する。作付にあたっては複数年契約を推奨する。

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦に関しては、水田のフル活用、所得向上のため二毛作を主とするが、水利条件が悪い圃場を中心に麦への転換を図る。

(5) そば、なたね

該当なし

(6) 地力増進作物

該当なし

(7) 高収益作物（園芸作物等）

水田の高機能化、生産性向上のため、「野菜」、「花き・花木」の高収益作物の生産拡大を図る。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

別紙のとおり

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

別紙のとおり

## 7 産地交付金の活用方法の概要

別紙のとおり

## 8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

## 別紙

## 5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1521		1479		1460	
備蓄米	5		6		6	
飼料用米	67		77		80	
米粉用米	16		16		17	
新市場開拓用米	-		-		-	
WCS用稲	-		-		-	
加工用米	0.1		0.1		1	
麦	3.5		4		6	
大豆	-		-		-	
飼料作物	-		-		-	
・子実用とうもろこし	-		-		-	
そば	-		-		-	
なたね	-		-		-	
地力増進作物	-		-		-	
高収益作物	3.1	0.2	3.1	0.2	3.7	0.2
・野菜	1.2	0.2	1.2	0.2	1.7	0.2
・花き・花木	1.9		1.9		2	
・果樹	-		-		-	
・その他の高収益作物	-		-		-	
その他						
・〇〇						
畑地化	-		-		-	

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）		目標値	
1	飼料用米 （基幹作）	飼料用米の生産支援	取組面積	(3年度)	67ha	(5年度)	80ha
2	米粉用米 （基幹作）	米粉用米の生産支援	取組面積	(3年度)	16ha	(5年度)	17ha
3	加工用米 （基幹作）	加工用米の生産支援	取組面積	(3年度)	0.1ha	(5年度)	1ha
4	野菜、花き、花木 （基幹作、二毛作）	高収益作物に対する支 援	野菜作付面積	(3年度)	1.2ha	(5年度)	1.7ha
			花き作付面積		1.9ha		2.0ha
			合計		3.1ha		3.7ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:愛知県

協議会名:一宮市地域農政推進協議会

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	飼料用米の生産支援	1	3,780	飼料用米(基幹作)	新たな品種の導入による作期分散等の実施等
2	米粉用米の生産支援	1	3,780	米粉用米(基幹作)	新たな品種の導入による作期分散等の実施等
3	加工用米の生産支援	1	3,780	加工用米(基幹作)	新たな品種の導入による作期分散等の実施等
4	高収益作物に対する支援	1	10,000	野菜、花き、花木(別紙のとおり、基幹作)	通常の肥培管理を行うこと等
4	高収益作物に対する支援(二毛作)	2	10,000	野菜、花き、花木(別紙のとおり、基幹作)	通常の肥培管理を行うこと等

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

別紙

野菜	きゅうり	しゅんぎく
	トマト	みつば
	ナス	ふき
	ピーマン	かぶ
	かぼちゃ	カリフラワー
	いちご	こまつな
	すいか	さやえんどう
	キャベツ	ちんげんさい
	はくさい	にら
	ホウレンソウ	にんにく
	ネギ	みずな
	タマネギ	やまのいも
	大根	菜の花
	にんじん	野菜苗
	さといも	
	しょうが	
	えだまめ	
	さやいんげん	
	トウモロコシ	
	ばれいしょ	
かんしょ		
キノコ類		
ブロッコリー		

花き	花苗
	花木類